
獄つぶし 中辛

雨月

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

獄つぶし 中辛

【Nコード】

N0834H

【作者名】

雨月

【あらすじ】

時雨「じゃ、前回までのあらすじを……………」千夏「前回、不適切な発言のためにここを追われてしまった霜崎……………」そして、その霜崎に変わるのは時雨の姉、千夏です。」時雨「……………」こ、こっちのほうが不安だ……………」

（前書き）

時雨「良い子の皆あ？さあ、獄つぶしが始まるよ」千夏「さあ、画面から4メートルほど離れて見ようね」時雨「……………」

獄つぶし　　中辛

千夏

「よっしゃ、世界は私を中心に動いているに違いない」

時雨

「……千夏姉さん、しよっぱなから何を言ってるんだよ……それと、いまだき右手をお空に向けて宣言するようなやり方恥ずかしいからやめてよ」

千夏

「何をおっしゃる、ウサギさん！」

時雨

「うわ、それ言う人久しぶりに見たよ……」

千夏

「一言、いわせてくれえっ!!」

時雨

「って、今度は何さ？」

千夏

「泣けるエロゲってあんた、エロゲで泣いてどうするんだ!?! 泣けるエロゲで泣いちゃったやつは負け組でしょ!」

時雨

「何でさ？」

千夏

「エロゲエの領域はエロゲエ、泣くゲエは泣くゲエ!」

時雨

「……そのエロゲエって発音はおいておくとして……まあ、言われて見ればそんな気もするね？」

千夏

「つまり、エロいだけじゃ売れないってことなんでしょうね」業
界も大変だ」

時雨

「まあ、大変だろうね」

千夏

「ああ、そうそう……これはあたしが中学生のころに思ったんだけどね……」

時雨

「あれ？設定上千夏姉さんって小学生以内に死んでなかったっけ？」

千夏

「そのネタは振っちゃ駄目。わからない人のほうがぜえたい、多いから。気にしないで」

時雨

「はあ、まあ、いいんですけどね」

千夏

「さえない突込みほどいらぬものはないわよ、時雨。今度不燃物でごみとして出しちゃうから」

時雨

「……」

千夏

「ま、話は戻るんだけどつまり、不良って言ったら金髪、ボタンを留めないって……ほら、めちゃくちゃみんながみんなまねするからぱつと見て不良がどの不良がよくわからないじゃん？」

時雨

「……けどさ、これってこの小説の趣旨とかと違うと思うよ？」

千夏

「大丈夫大丈夫、これを小説だっと思ってている人がいたら教えてほしいぐらいだから」

時雨

「ま、まあ、そこまで言うなら……」

千夏

「つまり、ネットの住人さんたちも昨今似たり寄つたりの表現しかないってこと」

時雨

「どういうことさ？さっぱりわからないよ？だって、ネットの住人さんは顔とかわからないじゃないか？文面だけだし……」

千夏

「そう！そこっ！..」

時雨

「へ？」

千夏

「ちょ、おまっ……とかそんな感じが多々ある気がしない？たとえば、それを使うのが暗黙のルールとなったとしても現実の世界だろうが、ネットの世界だろうが若者というか、やっぱり真似たがるものなのかねえ？」

時雨

「それが流行つてもものじゃないの？どう？千夏姉さん？」

千夏

「それならどこかが企画して『ネット流行語大賞』とか作ればいいのに」

時雨

「はあ？」

千夏

「気に入った言葉に投票して決める」

時雨

「それで、決まった言葉をどうするの？まさか、特定してまで表彰できないし……」

千夏

「次の年、その言葉使っちゃ駄目」

時雨

「……………」

千夏

「おもしろいでしょ？」

時雨

「いや、別に」

千夏

「つゝかさ、荒らしを普通に荒らしとか表現している人が多いけどさ、『嵐』とかどうよ？」

時雨

「さ、さあ？」

千夏

「つゝわけで、気に入ったらつかってもらえば『ネット流行語大賞』にいけるかもしれんのじゃあっ！」

時雨

「……………そんなの、数年で終わっちゃうと思うよ？そんなオタク語って多くないと思うし……」

千夏

「ちえっ、いけると思ったのに……………」

時雨

「ああ、そういえば多くないって言えばオタクのレパトリーというか、属性萌え？ってどのくらいあるんだろ？」

千夏

「それこそ人それぞれでしょ？ポニーテール萌えとか、めがねフェチとか、ロリコンとか……………」

時雨

「苗字がで、名前が萌って人もレパトリー？」

千夏

「……………名前フェチ？ってやつかしら？」

時雨

「んゝわかんないね？」

千夏

「きつと、私たちが知ってはいけない領域なんだわ……」

時雨

「そうなんだね……」

千夏

「ああ、それとそれと！オタクの人ってなんだか絵が上手そうないメージがあるわよね？」

時雨

「また適当なことを……全員が全員、そうじゃないでしょ？」

千夏

「今はさまざまことができる人が求められているって言うのにね……
…ただフィギュアを見るだけのオタクじゃ駄目よ」

時雨

「また、そんな決めつけ、そして持論を展開して……」

千夏

「あゝこのネタで引つ張るのもそろそろ限界だわ……」

時雨

「そりゃあね、確かに限界だろうけど……」

千夏

「ああ、それと最後に！まったく変化のないギャルゲーを移植ばかりしても問題あるだろうっ！！」

時雨

「……………」

千夏

「やっぱ、サブキャラはサブキャラかつ！？姉と妹でなんであれだけ話の長さが違うんだ！？作者はやってみて妹がこの程度なら姉もそんなに長くないだろうって思ってた夜中からプレイしてもうちよつとで朝日を拝むところだったんだぞっ！」

時雨

「……………ああ、そういえば次の日のテストが悲惨な結果になって嘆いた

らしいし……」

千夏

「サブキャラファンの皆さん……悲しんでください、あなたが悪いんですよ？サブキャラなんて好きになるから、メインを好きになれないから微妙なストーリーで終わってしまう……まるでカゲロウ……カゲロウキャラはおかしいそうに！時雨、これをもって！」

時雨

「……えっと、『カゲロウキャラがっぱにはいつてしまった方、ご連絡ください……慰めます』……」

千夏

「さてと、作者の心の叫びも終わったことだし……次のネタとして『男がやって絶対にすべるネタ』は……」

時雨

「それ、すごい題名だね？」

千夏

「……そういえば聞いた話だけど……男が両肩をつかんで身体をくねらすのはめっちゃキモイって言ってたわ」

時雨

「誰が？」

千夏

「神様が」

時雨

「……さあ、画面のみんなもやってみよう！」

千夏

「しかも、前より後ろから見るとがキモイんだって！」

時雨

「……あほらしいよ、千夏姉さん……」

千夏

「それと、『あなたのハートを狙い撃ち』ってな台詞もアウトらしいわ」

時雨

「そらあ、そうだろうねえ」

千夏

「こりゃ、さすがに女子がやってもぎりぎりだなあ……おばさんだつたら完全アウトだ」

時雨

「さすがになんだかネタ切れ気味だよねえ？」

千夏

「じゃ、多分かぶったかもしれないけどこのネタ……ついに決着！？バナナはおやつにはいるのかつ！！！」

時雨

「おおっ！？」

千夏

「まずはおやつの定義から参ってみましようっ！！確か、おやつはもともと朝食とか、昼食とかで足りない分の栄養を補うために間食をするためのものです！」

時雨

「じゃ、じゃあさ……それが正しかったらバナナは……」

千夏

「そうですっ！！バナナはおやつに入ります！だから、遠足に持つていくリュックの中にも入るのです（意味不明）」

時雨

「反論の方、真っ向から突っ込んできてください……」

千夏

「作者には真正面から受けてたつた後に撃墜される自信がめっちゃありますから」

（終）

時雨

「さすがに、バナナネタじゃ終われないよ、千夏姉さん！」

千夏

「しょうがないなあ……じゃあさ、エロいアニメって何が一番だと思っ？」

時雨

「……ええっと……略すとQ、Bだっけ？あのアニメ？」

千夏

「ぶつぶーあれはタイトルからじゃエロいと判断できません！」

時雨

「じゃ、じゃあ十八歳以上しか見れないアニメ？」

千夏

「ちなみに、小学生だって見てます」

時雨

「ああ、わかった！サ。エ。んだ！」

千夏

「惜しい、答えはちびま。こちゃんでした」

時雨

「!？」

千夏

「つて、さすがにここまでは見てないよね？」

時雨

「見てない見てない！見られたらめちゃくちやまずい！隠すところまでエロいなんて……」

千夏

「え、えーと、次回の獄つぶしはあなたの手にかかってます！感想、評価のどちらかが一度でもあれば……もう一回やります今回は、ほんとっ！ごめんちゃい！反省します！」

時雨

「……さすがに今回はあの千夏姉さんでも罰が悪そうだね……」

千夏

「ああ、それとち。こつて書くよりち凸こつて書いたほうがよくない？」

時雨

「反省してないっ!!」

千夏

「じゃ、今回も人気投票するか……この前はぶつちぎりで剣山零時つてやろつが一位になっちゃったけど……今回は私が一位を飾って見せるわ！」

時雨

「それ、やったら次回もやらないといけないよねえ？」

千夏

「ふふ、作者にはとっておきのあのネタがあるわ！そいつが見たい人はぜひ、感想を！」

時雨

「……」

千夏

「……ん？ち凸こがあれならちびま。こも……凹にしたほうが…
…」

時雨

「ほんとつにすみませんでしたっ！！」
（本当に終）

（後書き）

はてさて、いかがだったでしょうか？あいかわらずめちゃくちなことばかり書いていますし……不快な思いをしてしまったかた、もうしわけありませんでしたっ！え、えーと、おこがましいですが、よければ感想なんかをいただけたら次に生かしていけるんですけど………というか、このまえ小説っぽくないといわれたんで今回はちゃんと物語性を……え？あまり小説っぽくなかった？………ちゃ、チャンスがあれば次回も書いていきたいと思っているので、よろしくお願いします。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0834h/>

獄つぶし 中辛

2010年10月9日13時45分発行